

経営比較分析表（令和4年度決算）

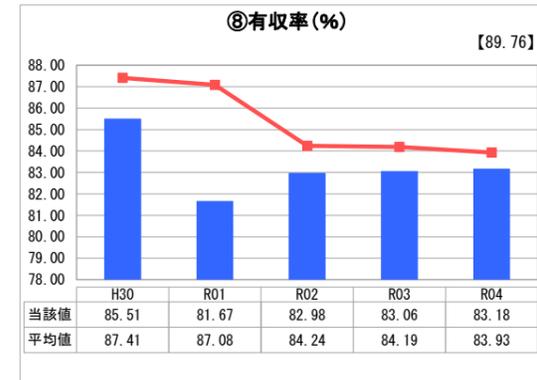
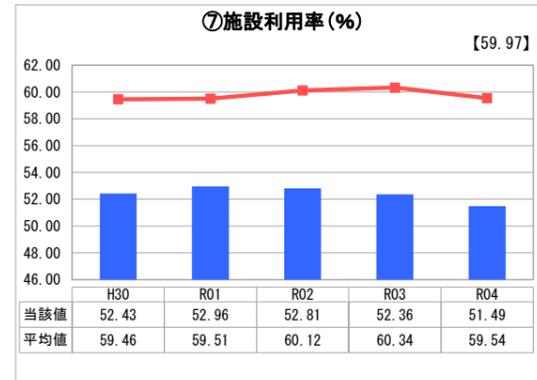
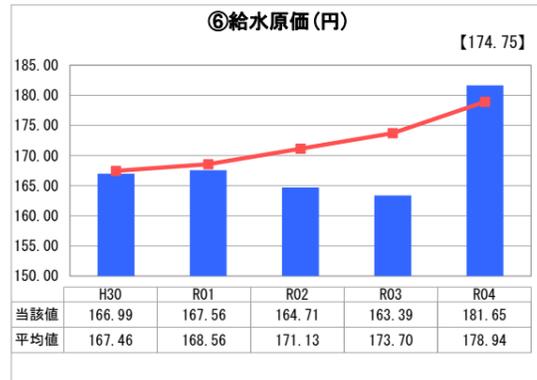
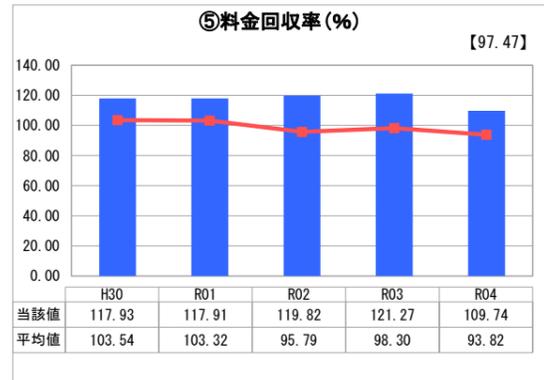
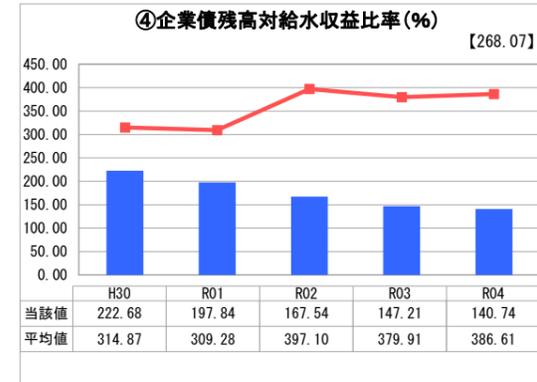
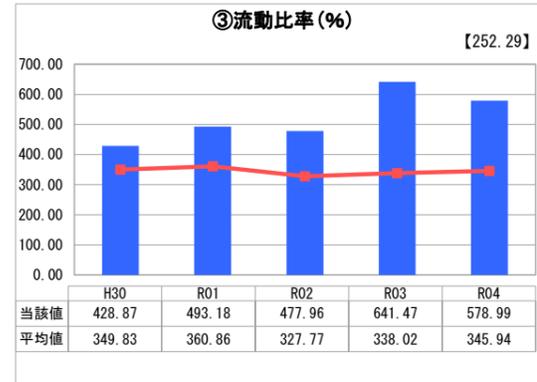
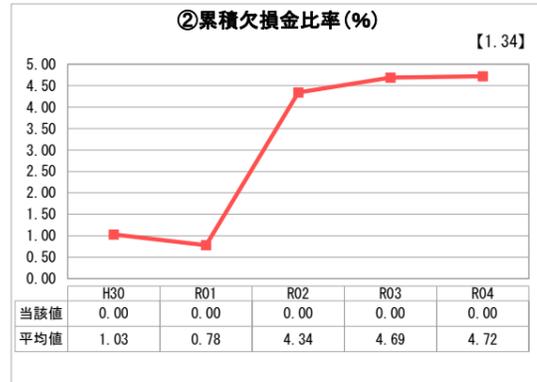
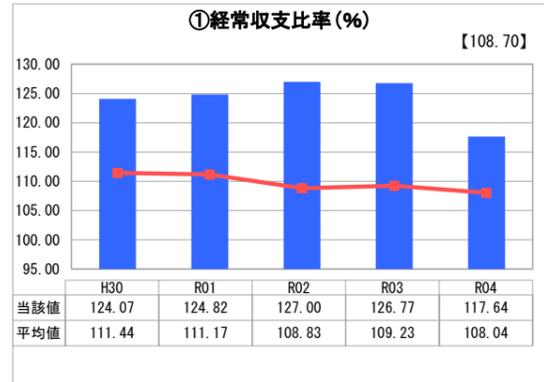
長野県 須坂市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	89.30	99.93	3,300	

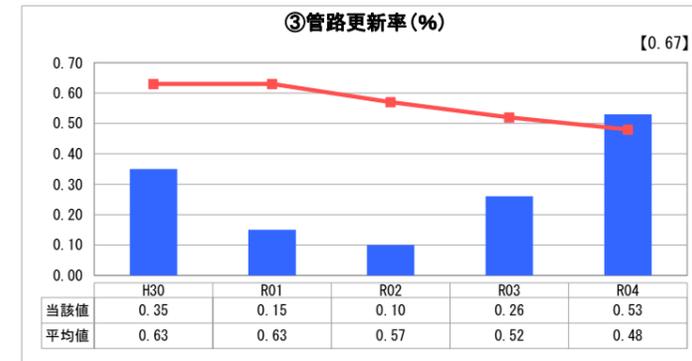
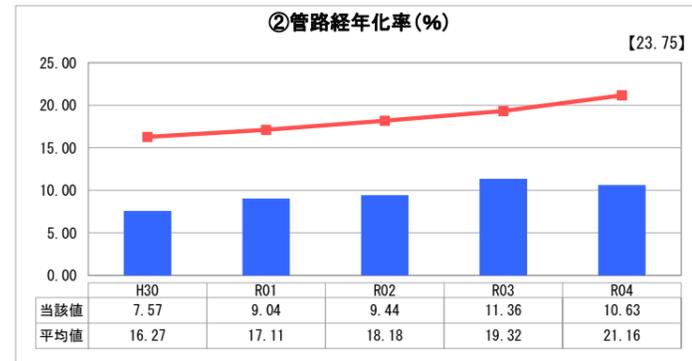
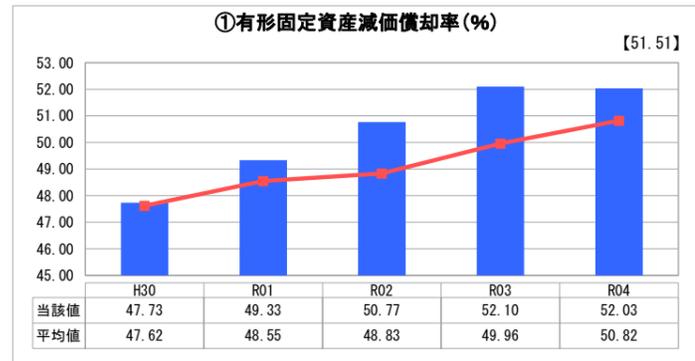
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
49,776	149.67	332.57
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
49,658	52.69	942.46

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっており、「⑤料金回収率」も、給水に係る費用が給水収益で賄えているかを示す100%以上であり、今のところ健全財政を維持しておりますが、どちらとも減少傾向にあります。

「②累積欠損金比率」は、適正な料金設定による料金収入や経費削減による健全経営を維持しているため、計上しておりません。

「③流動比率」は、100%を上回っており、現金預金も収支に見合う額を確保しています。

「④企業債残高対給水収益比率」は、企業債残高を小さくする方針により改善しております。今後増加する施設の更新費用に充てる企業債を有効活用してまいります。

「⑥給水原価」は、管路等の修繕費が増加したことにより高くなりました。

「⑦施設利用率」は、全国平均や類似団体平均値と比較して大きく下回っています。これは、メインの水源であるダム水位不足に対応するため、予備能力を確保してきたことにあります。

「⑧有収率」は、全国平均や類似団体平均値と比較すると若干低めであり、給水される水量が収益に結びついていないため、漏水等の原因を特定し、対策を講じる必要があります。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は、年々高くなってきており、法定耐用年数に近い資産が増加しております。

「②管路経年化率」は、国平均や類似団体平均値と比較して大きく下回っていますが、1980年代後半から下水道の普及と同時に布設替えを行ったことから、今後、法定耐用年数を迎える管路が急激に増えることが想定されます。

「③管路更新率」は、②管路経年化率の上昇に伴い、今後高くなることが想定されます。

全体総括

給水人口の減少による給水収益の減少が予測される一方で、老朽化施設の更新需要が増加することから、経営指標は総じて今より悪化することが想定されます。

水道ビジョンの見直しにより今後の更新計画等が具体化したことから、経営戦略の見直しを行い、漏水対策による有収率の向上を含め、長期展望にたった事業運営に取り組んでまいります。

また、料金改定の必要性について、料金審議会を開催し検討してまいります。